

1 月 ^す る り に 澄 む

令和7年度 原山中だより

【第9号】令和8年1月8日発行

新しい年に

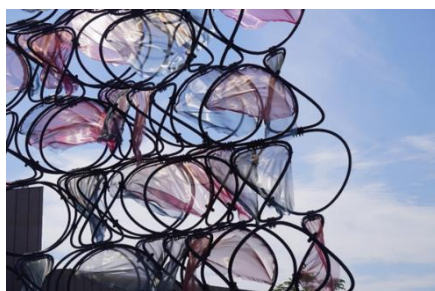
校長 遠藤 敏恵

令和8年が穏やかに明けました。暖かだった年の瀬とは打って変わり、2日には、さいたま市でも5cmの積雪となり、しばらくの間、久しぶりの雪を眺めることができました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、旧年中も大変お世話になり、ありがとうございました。今年も原山中学校では、生徒一人ひとりが充実した学校生活を送ることができるよう、教職員一丸となって教育活動を行ってまいります。引き続き、本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

今年は十二支（じゅうにし）でいうと午（うま）年で、60年に一度の丙午（ひのえうま）の年でもあります。私たちがよく使う干支（えと）とは、「子（ねずみ）・丑（うし）・寅（とら）…」で始まる12種類の動物が当てはめられた十二支と、「甲（きのえ）・乙（きのと）・丙（ひのえ）…」といった、日を10日のまとまりで数えるための呼び名である十干（じっかん）の組み合わせで、全部で60種類あります。今年はその十干の「丙」と十二支の「午」が合わさって、60年に一度の「丙午（ひのえうま）」の年となるのです。午年は、馬が前進する姿から、事業の発展や努力の実り、飛躍の年とも言われ、特に丙午は、「躍動」「成功」「勝負運」の年とされ、物事が好転したり、努力が実を結んだりする縁起の良い年とされています。



1月5日、高市内閣総理大臣が年頭の記者会見で、「日本には未来を切り拓くすばらしい技術・産業がたくさんある」とし、その一つとして、日本の学術機関から生まれた『ペロブスカイト太陽電池』を挙げられていました。この『ペロブスカイト太陽電池』とは、現在主流を占めている『シリコン系太陽電池（家の屋根等でよく見かけるものです）』の、電池自体や装備されるガラスの重量があるために設置場所が限られている、といった懸念を解決する技術として、脚光を浴びているものです。薄くて、軽く、柔軟であるなど、シリコン系太陽電池にはない特性から、これまでの技術では設置が難しかった場所にも導入できるものとして期待が高まっていて、2050年のカーボンニュートラルの達成に向けて、再生可能エネルギーのさらなる導入のために、これから益々注目を集めていくことでしょう。3年生の皆さんが修学旅行で訪れた大阪・関西万博でも、スタッフがその応用製品のの一つとして試作されたベストを着用している様子を見ることができました。『ペロブスカイト太陽電池』



が貼り付けられた、発電した電力で冷却ファンなどのデバイスを使用することができるベストです。また、パナソニック館で風に揺れていた薄い透明なフィルムも『ペロブスカイト太陽電池』です。日本の技術開発の素晴らしさって本当にわくわくさせられますね。今年も皆さんにとって「わくわく」がいっぱいで、「努力が実を結ぶ」、「飛躍の年」となりますように！

